【草花の部屋】

サクラソウ（サラソウ科サクラソウ属　Primula sieboldii）

和名：サクラソウ(桜草)　別名：ニホンサクラソウ(日本桜草)　英名：Primrose

ツツジ目　多年草　　原産地：日本、朝鮮半島、中国

花言葉：初恋、純潔、無邪気、青春、自然の美しさを失わない　他

花色：白、桃、紫、複色

← 写真-１　サクラソウ
撮影日：2020 年 04 月 28 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

↓ 写真-２　サクラソウの花
撮影日：2020 年 04 月 28 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

↑ 写真-３　サクラソウの葉
撮影日：2020 年 04 月 28 日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

サクラソウは高原や山地のやや湿った草原や開けた森林、河川敷の草原に見られる多年草です。春に芽を出し、浅く切れ込みの入った長楕円形の葉を根元から数枚広げます。4 月から 5 月に、中央から 1 本の花茎を出して、花径 2～5cm の数輪の花を咲かせます。6 月ごろには葉が黄ばんで枯れ、夏から秋は休眠しています。花色の幅

は狭いのですが、花形の変化が多く、近年では八重咲きもあるそうです。花の表と裏で色が異なる園芸品種も少なくないそうです。

花の筒状になった部分には 5 本の雄蕊と 1 本の雌蕊があります。サクラソウの花には、雌蕊が長く雄蕊が短い長花柱花(チョウカチュウカ)と、雌蕊が短く雄蕊が長い短花柱花(タンカチュウカ)があり、これは株によって決まり、自家受粉を避ける仕組みとなっています。この性質は異花柱花性(イカチュウカ性)と呼ばれ、サクラソウ属の植物に見られるものです。稀に雌蕊と雄蕊の長さが同程度の花もあるそうです。

サクラソウは、乾燥に弱いのが特徴で、水切れには充分注意をする必要があります。花期は 4 月～5 月ですがが、夏の暑さには弱いので、葉っぱが黄色くなってきた場合などは涼しい半日陰の風通しの良い所に移すと良いそうです。

サクラソウの栽培は江戸時代の中頃から記録が見られ、江戸時代後期になると様々な花色、花姿の園芸品種が作出された古典園芸植物(伝統園芸植物)の一つだそうです。現在では 300 種以上の園芸品種が栽培されていますが、その半数が江戸時代に作出された品種だそうです。

江戸時代の栽培は、荒川に自生するサクラソウから始まっているそうです。埼玉県さいたま市にある「田島ヶ原サクラソウ自生地」は荒川流域のサクラソウの群生地で、江戸時代からサクラソウの名勝地として親しまれており、現在では特別天然記念物に指定されています。また、上尾市、桶川市の境界を流れる江川が荒川に注ぎ込む付近の低湿地を「荒沢」といい、こちらもサクラソウの自生地だそうです。近年、乱開発が進み、環境が損なわれる可能性があるため、トラスト地として保全し自生地を守る運動がボランティアの手によって行われているそうです。

サクラソウ属植物は世界中に約 400 種あり、ホザキサクラソウ(Primula vialii)など一部を除くと花の形や草姿に極端な違いがないので、「サクラソウ」を総称とすることが多いため、同属の他種が「サクラソウ」と俗称されることがあり要注意だそうです。園芸店で「サクラソウ」として売られている植物としては西洋サクラソウ(P. polyanthus)、オトメザクラ(P. malacoides プリムラ・マラコイデス)、トキワザクラ (P. obconica プリムラ・オブコニカ)、などがあり、ニホンサクラソウは少ないそうです。